

第 1 回会議の振り返りにおける地域における地域協働合校の課題

【現役世代の参加促進】

- 1) 現役世代は多忙なため地域や学校と結びつく手段がない。
- 2) 子どもがいないと地域や学校などとかかわりが少ない。
- 3) 各種団体においても高齢化が進み、活動における依頼が厳しい状況となってきた。
- 4) 地域活動において協力者は減少傾向であり、団体においても後継ぎができない。

【世代間のつながりと意欲の活性化】

- 5) 地域も現役世代に関わってほしいと思っているが、いい案が出てこないのが現状。
- 6) 若い人たちがやりたいことをやれる、受け皿が地域に必要。
- 7) 意欲のある子どもたちは多くいるが、学習の場面等でどのように引き出すかが難しい。

【次世代への引継ぎと持続可能な学び】

- 8) 地域の高齢化に伴い、持続可能な事業展開のため、次世代に繋げることが課題。
- 9) 地域の行事や活動に中高生が参加することを通して、地域・社会への貢献や、人とのつながりを育むことが求められる。
- 10) 地域における事業が大人のお膳立てになっているものが多い。

【地域資源と人材の活用】

- 11) 意欲のある人が頑張っているだけでは、広がりには欠ける。団体の実情に寄り添いながら展開を考える必要がある。
- 12) 地域課題と地域資源を繋ぐ人材不足。

【新規参加者の獲得と継続的な関与】

- 13) これまで地域活動に関わっている人は継続して関わっているが、新規の人はなかなか入りにくい。
- 14) 「担い手がない」のではなく、人はいるが入れないという仕組みのあり方をめぐる課題。
- 15) 高齢化とよく言われるが、若い人たちは関わるきっかけがない。
- 16) 学生の場合、団体に所属していないと活動に参加することが難しい場合がある。
- 17) 参加の敷居を低くし、それぞれが楽しく負担なく子どもと地域活動に参加できる必要がある。
- 18) 今の大学生は勉強も含め多忙であり、地域の中に入っていく時間がない。
- 19) ボランティアを募ってもなかなか参加してくれる人は少ない現状にある。
- 20) 広報誌やSNS等、世代に応じた様々な媒体を活用した発信が必要。

課題からみる今後の地域協働合校の方向性

I	現役世代が無理なく関われる 学びと地域活動の構築
II	子どもと大人の協働による 学びによるつながり
III	次世代が主体的に関われる 持続可能な学びと地域活動
IV	地域資源の活用を促進する 「つなぎ役」の強化
V	新たな担い手が関わりやすい 仕組みづくり